**タイトル中央揃えフォントサイズ12ポイント**

―サブタイトルがある場合，改行して中央揃え―

関西レット

吹田大学

**Title in English: Capitalize All Words Except for Short Articles, Conjunctions, and Prepositions Fewer Than Four Letters**

KANSAI, Let

*Suita Univesity*

**Abstract**

本文が英語の場合は英語で書く。日本語の場合は日本語で可。本文中の記載方法については，LET機関誌に準じるが，必ずしも厳密に守らなくても構わない。

***Keywords:*** keyword 1, keyword 2, keyword 3, keyword 4, keyword 5 (3つ以上5つまで)

**1. はじめに**

このテンプレートは外国語教育メディア学会（LET）関西支部メソドロジー研究部会報告論集に投稿する原稿に使用する。著者が複数いる場合は，1人目の後，1行スペースを空けて氏名と所属を入力する。メソドロジー研究部会報告論集は査読なしの扱いになるため，匿名化の必要はない。本文で使用する言語に関わらず，150語以内の英文の要約を付けるものとする。要約のあとは1行空けて，Keywords（*Keywords*は斜字体になっているが，個々のキーワードは斜字体にしない）を3つ以上（5つ以内），執筆言語で記入する（英語でキーワードを書いても構わない）。

**1.1 タイトルの書き方**

日本語タイトルでは，サブタイトルの前後をダッシュ「―」で挟む。英語タイトルでは，冠詞および3文字以下の接続詞・前置詞以外は，すべての語の語頭を大文字とする。サブタイトルはコロンで区切る。

**1.2 所属の書き方**

非常勤の場合でも（非）などとは記載しないこと。大学院生の場合「○○大学大学院生」，また，英語では，Graduate Student, \*\* Universityなどとし，修士課程と博士課程の区別はしない。

**1.3 書式注意点**

本文の太字，余白，文字フォント，セクション番号の打ち方，インデントなど，すべての設定をこのテンプレートに従い変更しないこと。特に，別ファイルで用意した原稿を貼付ける場合には，形式が変更されないように注意する。

使用する書体は，原則として和文の場合「明朝体」，英文の場合「Times (New Roman)」とする。文字の大きさは和文の場合10ポイント，英文の場合10.5ポイントとし，1ページの行数を36行とする。和文の場合は1行37字とする。

日本語の句読点は，「，」と「。」にする。英数字には半角を使用し，全角は原則として使用しない。提出時に形式が守られていない場合には，提出を受け付けない場合や，書き直しを求める場合もある。

**1.4 セクション番号の付け方**

一番大きなレベルの見出しのあとにはピリオドを入れる（例：1. はじめに）。次のレベル以下の見出しのあとにはピリオドは入れない（例：1.3 セクション番号の付け方）。レベルは原則として3つまでとする（例：1.3.1）。それぞれの数字のあとには半角2文字分（全角1文字分）のスペースを入れる。レベルの太字の有無，フォントサイズなどは，このテンプレートに従うこと。次の見出しを作る場合は，1行スペースを空ける。図や表がセクションの最後に入った場合は，2行スペースを空ける。

**2. その他のガイドライン**

**2.1 引用方法**

本文中での引用方法は最新のAPAに基づく。和文の場合は前後の括弧を全角（）で記載する。英文の場合はすべて半角括弧 ( ) となる。これは和文中引用の一例（Cohen, 1988; 磯田, 2004, p. 48; 山本, 2002, p. 143）。括弧内はアルファベット順で記載する。著者が2名以上の場合は，永田・吉田（1997）というように，間を中黒・で区切る。著者が3名以上の場合は，和文・英文ともに初回の引用から，Sumi et al. (2022)，住 他 (2022) のように記載する。

**2.2 表**

表は本文中に入れ，通し番号をつける。表Xで1行取り，次の行に表のタイトルを記述する。表中の文字や数字は小さすぎると，印刷時に見にくくなってしまうため注意する。表の後に次のセクションが続く場合は，2行スペースを入れる。

**表1**

テストと検定の結果

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| テスト | グループAa | グループBa | グループCa | *F* | *p* |
| リスニング | 59.13 (9.76) | 57.21 (7.61) | 53.77 (7.46) | 4.39 | .02 |
| スピーキング | 64.33 (14.54) | 57.17 (13.61) | 53.61 (19.81) | 4.53 | .01 |

*Note*. a*n* = 40; Mean (*SD*)

**2.3 図**

図は本文中に入れ，通し番号をつける。以下は図の例。

**図1**

シミュレーションの結果



図の番号とタイトルは，表と同じく図の上に付し，左寄せにして配置する。図や写真は数字や文字も見やすい大きさにそろえておく。図の前後は1行あける。図の後に次のセクションが続く場合は，2行スペースを入れる。

なお，図表を他の文献資料から転載する場合，転載許可の要不要を確認すること。転載許可が必要な場合は，投稿までに，著者の責任において許可を得ておくこと。

**2.4 用語上の注意**

被験者（subjects）などの語は，一部の場合を除いて，参加者（participants）という用語を用いるほうが望ましい。そのほかの倫理的配慮については，APA最新版を参照のこと。

**謝辞**

謝辞がある場合は，本文の直後に記載する。

**注**

1. 注は脚注ではなく，本文と参考文献の間にまとめて記載する。

2. 本文中では「これは注釈の例1」というように右肩上付で注をつけておく。

**参考文献**

Bardovi-Harlig, K., Mossman, S., & Su, Y. (2017). The effect of corpus-based instruction on pragmatic routines. *Language Learning & Technology*, *21*(3), 76–103. https://www.lltjournal.org/item/10125-44622/

DOIのついてないオンラインジャーナルの場合はURLを記載する。

Breiman, L. (2001). Random forests: An Introduction. *Machine Learning*, *45*(1), 5–32. https://doi.org/10.1023/A:1010933404324

巻はイタリック，号はカッコ内。書名・論文名の大文字は冒頭のみ。雑誌名は単語ごとに語頭を大文字にする。DOIや（DOIがない場合は）URLを必ず入れること。

Campbell, D. T., & Kenny, D. A. (1999). *A primer on regression artifacts*. Guilford Press.

著者が複数の場合に，＆の前にカンマを忘れない。書名は冒頭とコロンの後のみ大文字とし，斜字体で記載する。出版社の地名は必要なし。

Cohen, J. (1988). *Statistical power analysis for the behavioral sciences* (2nd ed.). Lawrence Erlbaum. 版は括弧にいれる。

Gilbert, D. G., McClernon, J. F., Rabinovich, N. E., Sugai, C., Plath, L. C., Asgaard, G., Zuo, Y., Huggenvik, J., & Botros, N. (2004). Effects of quitting smoking on EEG activation and attention last for more than 31 days and are more severe with stress, dependence, DRD2 A1 allele, and depressive traits. *Nicotine and Tobacco Research*, *6*, 249–267. https://doi.org/10.1080/14622200410001676305

著者が20名までは全員記載する。20名以上では，最初の19名＋… ＋最後の1人の形で記載する。

Haybron, D. M. (2008). Philosophy and the science of subjective well-being. In M. Eid & R. J. Larsen (Eds.), *The science of subjective well-being* (pp. 17–43). Guilford Press.

筆者名は「姓＋名イニシャル」だが，編著者名は「名イニシャル＋姓」の順序になる。編者が複数名の時には，(Eds.)とする。編者が2名の時は，&の前にカンマをつけない。書名の後は，半角スペースを挟んで，ページ数を入れてからピリオドをつける。

In’nami, Y., & Koizumi, R. (2009). A meta-analysis of test format effects on reading and listening test performance: Focus on multiple-choice and open-ended formats. *Language Testing*, *26*, 219–244. https://doi.org/10.1177/0265532208101006

石川慎一郎 (2013)．「ICNALEを用いた中間言語対照分析研究入門：日本人学習者の『特徴語』を再考する」『英語教育』(大修館書店), *61*(13), 64–66.　定期刊行物は誌名だけで特定できない場合，（　）で刊行所（学会・大学・出版社）を併記する。『＊＊大学紀要』や『＊＊学会論集』などの場合は不要。論文名は「　」，書籍・雑誌は『　』。年号のあとのピリオドは全角，「　」の中でもう1回「　」を入れる時は『　』になる。

磯田貴道 (2008).『授業への反応を通して捉える英語学習者の動機づけ』溪水社

前田啓朗 (2008).「WBTを援用した授業で成功した学習者・成功しなかった学習者」*Annual Review of English Language Education in Japan*, *19*, 253–262. https://doi.org/10.20581/arele.19.0\_253

靜哲人・竹内理・吉澤清美 (2002).『外国語教育リサーチとテスティングの基礎概念』関西大学出版部

複数の著者の記載はナカグロ（・）を使用する。

・参考文献は本文で引用したもののみを英文・和文ともにアルファベット順で掲載する。

・和文の参考文献では，括弧は半角を用いる。ジャーナルや本の記載は上記を参照のこと。

・ジャーナルのページ数引用はハイフン（-）ではなく，en dashダッシュ（–）を使う。